

平成29年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

武雄市立橋小学校

本校では平成29年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

平成29年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H25 入学 現5年	57.0 (0.93)			64.0 (0.98)		
H24 入学 現6年	70.1 (1.06)	76 (1.01)	56 (1.00)	70.1 (1.04)	84 (1.05)	44 (1.00)
H29 正答率の全国比		(1.02)	(0.97)		(1.07)	(0.96)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率(%)、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H29正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・国語科では、「漢字を正しく書く」「手紙の構成を理解し、後付けを書く」「場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」の正答率が低い。漢字の書き取りの繰り返し学習など、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、手紙の後付けの日付、署名、宛名の位置を正しく理解させること、2つの資料の内容を正しく捉えさせ、スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書かせること、与えられた資料の内容を正しく読み取り、指定された文字数など、必要な条件に合わせて書かせることなどの定着を図る必要がある。
- ・算数科では、「数量の関係を数直線に表す」「重さ、長さについて任意単位を基に比較する」「数と数の関

係に着目して、問題場面に適用する」「数の意味を表と関連付けながら正しく理解する」の正答率が低い。2つの量の関係を数直線と対応させて説明させること、任意単位による測定の意味について理解させること、問題場面から数の関係のきまりを読み取り、適用させること、表や式など複数の資料から必要な数を取り出して、式の意味を理解させることなど指導が必要である。

【意識調査】

- ・国語科で「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く」と回答した児童の割合が高い。今後も、考えと理由付けを関連させながら学習を進めていきたい。しかし、「意見など発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫する」と回答した児童の割合は低い。考えや意見を発表する際は、内容や順序など構成を考えさせること、発表の機会を増やすことの指導が必要である。
- ・算数科で「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童の割合が高い。今後も、問題と式の意味と関連させながら考えさせていきたい。しかし、「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合はやや低い。問題に取り組みせるときは、見通しをしっかりとらせることなど、自力解決に向けた活動を充実させる指導が必要である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1 共通した授業展開

- ・授業において、「めあて」「言語活動」「まとめ」「ふりかえり」を大切に学習指導を行う。
- ・「めあて」に対する自分の考えを確実にノートに書かせ、ペアや全体で考えを説明したり、伝え合ったりする場を設定する。
- ・児童が考えを交流する場において、深まりや広がりが見られるための課題提示や発問を工夫する。

2 ICT利活用

- ・タブレットや電子黒板など、ICT機器を活用し、児童の興味関心を高めたり、思考を助けたりするなど、指導方法の改善や向上に努める。

3 校内研究

- ・算数科を中心に全員がグループ学年や全体での研究授業を実施し、互いに学び合い考えを深めるための手立てを工夫した授業づくりを行う。
- ・学習規律の徹底、授業と家庭学習の連携について、協働体制を図り教師の授業力の向上をめざす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

1 朝や放課後の時間における継続的な取り組み

- ・基礎基本の学習内容の定着や集中力の育成を図るために、週に4回、朝の時間に「花まるタイム」の時間を設定している。内容は音読、図形、計算、視写の活動を15分間で行う。
- ・5、6年で火曜日の放課後に20分間の「パワーアップタイム」を設定し、思考を伴う活用問題を中心に組みこませる。

2 学習規律の確立

- ・「学習用具」「ノートの書き方」「発表の仕方」等を全職員で共通理解し指導の統一を図る。
- ・筆箱、下敷きなど筆記用具の準備について、低・中・高学年ごとに「学習用具の約束」を家庭向けに発行し、家庭と学校との連携を図るようにする。

3 家庭学習の充実

- ・家庭学習について、「統一した宿題」と「学年の実態に合わせた自主学習」を全学年共通理解して取り組ませる。
- ・自主学習の意味やねらい、進め方、学習内容を提示した「自主学習のてびき」を低・中・高学年向けに発行し、家庭と連携して学習に取り組ませる。

4 読書活動の推進

- ・お話ボランティアによる読み聞かせや、各学年に応じたお薦めの本の紹介など、読書の推進を図り、年間の貸し出し数が児童一人当たり 100 冊以上になることをめざす。
- ・ノーテレビデー・ノーゲームデーを月 1 回設定し、「家読」への取組を呼びかける。